

GRADUATE OF SHIMANE UNIVERSITY

1000時間体験学習プログラム
今年、創基150周年を迎えた教育学部には、理論的な学びに加え、地域や教育現場での実践的な体験を積むことで、教員としての実力を養うことを目的とした「1000時間体験学習プログラム」

中学生という多感な年頃にも惹かれたといえます。「中学生は思春期や反抗期など、心が揺れ動く複雑な時期であり、大人と子どもとのちょうど中間にいます。その分、成長の幅が大きく、ちょっとした声かけで変化をしていく。そんな生徒の成長を間近で感じられるこの仕事に、大きなやりがいと魅力を感じています」と伊藤さん。



があります。具体的には、地域活動や教育支援などの基礎体験を640時間、教育実習やカウンセリングなどの学校教育体験を360時間履修し、計1000時間を超える体験を行うプログラムです。島根大学独自のこの取り組みは、伊藤さんにとって、教育現場との距離をぐっと縮める貴重な機会となりました。「教育実習では、近隣の学校を複数訪れ、大学での学びと実践が結びついて理解が深まりました。現場で初めて分かることも多く、答え合わせと新たな発見がありました。他にも給食指導や、島根県立青少年の家での活動など、さまざまな貴重な経験ができました。最初は1000時間という数字に驚きましたが、自分のやりたいことや見ておきたい現場をピックアップしていくうちに、気づけば1000時間を超えていました」と語ります。

こうした体験は、「なりたいたい自分」を具体的に思い描く大切な時間だったそうです。学生のみなさんには、「実習は大変かもしれませんが、積極的に関わることによって多くの魅力が見えてくると思います」とエールを送ります。

日々成長を感じる
昨年までは別の中学校で、1年生から3年間、学年を持ち上がりで担任していた伊藤さん。「教師は大変だね」と言われることもありましたが、「教師ほど生徒の成長を間近で感じられる仕事は他にありません。やんちゃだった子が3年間で大人に成長していく姿を見ると、本当に感動します。卒業式では、保護者以上に泣いてしまいました」と語ります。個々の成長が見られる中学生ですが、集団で発揮するエネルギーは想像を超えており、自身も日々、生徒からエネルギーをもらっているそうです。また、大学時代の同期が同じ島根県内で教師として活躍していることも、大きな励みになっているとのこと。食事や旅行を共にし、同じ立場・地域で働く仲間の存在は、何よりも心強い支えとなっています。「これからも自分自身の思いや考えを率直に伝えながら、子どもたちとできるだけ近い距離で向き合っていきたいです」と、意欲を語ってくれました。

活躍する卒業生

島根県中学校教諭 伊藤元伽さん

島根大学 教育学部・学校教育課程Ⅱ類健康スポーツ教育専攻2021年3月卒業



成長を近くで感じる、魅力ある教育の現場



“大変”よりも、好きと感動が上回る
教育学部を卒業後、迷うことなく島根県で教員の道を選んだ伊藤さん。自身が育った町で、子どもたちを支えたいという思いから、教員となって5年目を迎えました。現在は安来市の中学校で1年生の担任を務めています。教師を目指すきっかけは、恩師の「教師という仕事は、人の人生の一部に関われる素敵な仕事だよ」という言葉に深く共感したことだそうです。中学校教諭を選んだ理由の一つは、部活動の存在でした。小学3年生から大学4年生まで陸上競技に取り組んできた伊藤さんにとって、部活動を通じた指導は大きな魅力でした。また、



安来市立第一中学校

島根県安来市飯島町792

<https://www.city.yasugi.shimane.jp/gakkou/daiichi-jh/>

島根県安来市にある公立中学校で、学力向上と心の育成に力を入れ、地域との連携や部活動も盛んです。